

令和6年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の

点検及び評価の結果に関する報告書

令和7年5月

世羅町教育委員会

令和6年度【年度未評価】事業評価表(自己評価表)

1 児童・生徒の学ぶ意欲を育て、確かな学力を付けます。

世羅町教育委員会 < 学校教育課 >

重点施策	取組方策	取組目標	進捗度	結果と成果	今後の課題と改善方策
(1) 個別最適な学び・協働的な学びのさらなる推進	○世羅町版「学びの変革」進捗状況チェックリストの活用	①各学校の研究教科又は研究主題に応じて、児童生徒が自ら課題(問い)をもつことのできる単元を構想し、授業を実施できている。 ②児童生徒に深い思考を促す授業づくりを実施するために、効果的にICTを活用することができている。	3	①町内教諭80名中、63名(78.7%)が実施できていると回答しており、中間評価の数値(69.1%)を上回った。年間4回実施した「学びの変革」推進協議会で協議した内容を生かし、各校の研究主任が中心となつて自校の授業改善を進めたことにより、7割以上の職員が単元構想の力の定着を感じている。 ②町内教諭80名中、63名(78.7%)が実施できていると回答している。令和6年度中に全校に導入した学習アプリの授業等での活用が進んでいる。また、オンラインで行ったICTの活用研修会には多数の参加があった。	①実施できていると回答した教職員の割合が令和5年度末の数値(84.7%)を下回った。「学びの変革」推進協議会等において、広島県の目指す教員の姿に関する視点から見直しを行うとともに、特に若手教員の授業力向上に向けた取組を検討する。 ②実施できていると回答した教職員の割合が令和5年度末の数値(86.7%)を下回っている。ICT活用による「よさ」を実感する研修を各校で実施し、授業での効果的な活用を促す。
(2) 特別な配慮を必要とする児童・生徒への適切な指導の充実	○特別支援教育コーディネーターを中心とした授業改善 ○SSR及び高野塾等、関係機関との連携強化	①特別支援教育に係る町主催研修を実施し、各校において、授業研究等により、その成果と課題を校内に生かすことができている。 ②令和5年度と比較し、不登校等の児童生徒数(50人)を1割以上減少させるために、特別な配慮を必要とする児童・生徒に係る校内支援会議等を定期的に実施することができている。	3	①町内教諭80名中、56名(70.0%)が実施できていると回答している。学びの多様化研修など、特別支援教育の考え方を活かした授業づくりについて研修を精進している。特に「選択授業と自己決定」というキーワードを基に個別最適な学びの視点で授業改善が進んでいる。 ②令和7年度の不登校児童生徒数は2月末現在で50名であり、近年の推移から考えると横ばい傾向である。校内支援会議については全ての学校が定期的に実施しており、不登校児童生徒への組織的な取組が進められている。	①特別な配慮を必要とする児童・生徒への適切な指導としては広島県教育委員会指導主事より指導助言をいただいた。また、特別支援学校のセンター的機能を活用し、各校における特別支援教育の推進が図られるよう、指導・助言を行う。 ②引き続き、指導主事による生徒指導訪問や今年度から新設した学びの多様化研修を活用し、不登校支援対策を推進する。また、高野塾やSSRなどの、校内外の教育支援センターの機能拡充を図る。
(3) 幼保小・小中高連携の充実	○町主催研修の充実及びカリキュラムマネジメントの改善	①児童実態に基づいた新たなスタートカリキュラムを、全ての小学校で作成することができている。 ②校種間において、育ちと学びの連続性を意識して、相互訪問及び合同研修等を実施できている。	3	①町内4小学校で児童実態に基づいたスタートカリキュラムを作成することができている。 ②幼保小や小小、小中高連携の場を設け、各所属の実態や取組について交流することで接続時の連携を円滑に行うことができた。	①幼保小連携の回数は各校によって違うため、実態に応じた連携や、交流できる場を意図的に設けていく必要がある。 ②発達段階の違いや指導のあり方について、さらに交流をしていくことがより深い児童理解につながる。就学に関わり、園所・小中連携の中で、実際の育ちや学びを見合う取組を充実させていく。

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度未評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

【基本方針】

2 夢や志を育む教育活動を進め、豊かな心を育てます。

世羅町教育委員会 <学校教育課>

重点施策	取組方策	取組目標	進捗度	結果と成果	今後の課題と改善方策
(1) 道徳教育の充実と生徒指導との一体化	○道徳科における道徳的判断力・実践意欲の育成 ○情報モラル教育の充実	①児童生徒アンケート調査等を通じて、道徳科で学んだことを自分の生活に生かしていると感じている児童生徒の割合を100%にすることができている。 ②児童生徒と保護者が一緒に学べる「活用型情報モラル教材」を懇談会等で周知し、全ての家庭で情報モラル教育の推進を図れている割合が80%以上となっている。	3	①道徳科で学んだことを自分の生活に生かしていると感じている児童生徒の割合は95.0%である。すべての学校において総合単元的道徳学習プログラムを作成・活用し、各教科等、体験活動等との関連を図った道徳教育の推進が行われている。 ②「活用型情報モラル教材」が周知できたのは、7校中3校である。しかし、道徳参観日において親子と一緒に情報モラルについて考える機会を設けるなど、各校の創意工夫による活用が進んでいる。	①道徳科において、児童生徒が自己の生き方について考えを深める指導の充実を図られるよう、各校への指導・助言を行うとともに、世羅町道徳教育推進協議会における授業研究等の充実を図る。 ②中学校における「活用型情報モラル教材」の活用が進むよう、生徒の発達段階に応じた活用事例などとともに、引き継ぎ本教材の周知に努める。
(2) 読書活動の推進	○児童生徒の読書習慣の確立に向けた取組の充実	①小学校低学年、中学年及び高学年、そして中学校と発達段階や教科内容等に応じて、校内の図書書を月数回利用できている。	4	①図書室を月に複数回利用している割合は、小学校及び中学校ともに100%である。委員会活動で図書室利用を促すなどの取組や、国語科、総合的な学習の時間等を中心に活用できている。	①利活用の実施として、小学校低学年から中学校にかけて、学年が上がるにつれて、減少傾向にある。また、教科の利活用においても、1人1台端末利活用の影響から図書利活用の機会が減少傾向である。読書習慣の確立に向けた指導方法等を見直し、改善していく。
(3) 特色ある学校文化の創造・継承	○地域に根差した学校文化の継承	①各校区の特色を生かした学習発表会・文化発表会を実施できている。 ②「輝く せらの学校文化発表会」の準備・検討委員会に生徒会役員を加え、生徒が主体的に運営参加する会を実施することができている。	3	①各校区の特色を生かした行事を設定し実施できた。 ②「輝く せらの学校文化発表会」の準備・検討委員会に生徒会役員を加え、生徒が主体的に運営参加する会となるよう実行委員会で調整し実施できた。	①今後明確な目的意識をもった行事内容へと改善していくため、児童生徒が主体となる場の設定や工夫を研究していく必要がある。 ②実行委員会では、運営に携わる生徒達が、計画段階から参加し、会の進行も生徒に任せ、主体的な発表会となるように計画をした。実施後の実行委員会において、今年度の取組をもとに児童・生徒が主体となる学校文化発表会のあり方について研究を行う。
(4) 防災意識を高めるコミュニティ・スクールの推進	○自治センター等の地域組織及び学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との連携	①コミュニティ・スクールの生かした防災教育を実施できている。 ②ハザードマップ等の公的な防災計画に基づき、国や県の資料を参考にした防災のための行動マニュアルが作成され、訓練の実施及び行動マニュアルの改善が図られている。	3	①今年度実施した学校は5校である。他2校についても次年度に向けて実施を検討中である。また、12月には世羅町コミュニティ・スクール連絡協議会を開催し、各校における取組状況について交流を行った。 ②水災や地震等に係る訓練は、全ての学校で計画・実施された。訓練実施後には、各校で消防署と連携を図り、振り返りと計画の見直しを行っている。	①すべての学校においてコミュニティ・スクールの活用が図られているが、防災教育の観点での積極的な活用を促す必要がある。引き継ぎ、連絡協議会を実施するなどして、各校における実践事例の交流を図る。 ②家庭や地域を巻き込んだ取組とすることで、より意識の高まりが期待できると考え、その方策を練っていく必要がある。

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている

年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

〔基本方針〕 3 健康づくりや体力づくりを進め、たくましく健やかな体を育てます。

世羅町教育委員会 <学校教育課>

重点施策	取組方策	取組目標	進捗度	結果と成果	今後の課題と改善方策
(1) 学校給食センターの再編整備と食育の推進	○学校給食センター建設及び運営に係る進捗管理	①関係課、アドバイザリー業務の委託コンサル及びBBO事業者と緊密な連携を図り、建設工事の進捗管理を確実に実施できている。 ②関係課、アドバイザリー業務の委託コンサル及びBBO事業者と定期的に連携を図り、運営計画及び準備について調整できている。	3	①月2回程度、定期的に会議を設け、進捗状況や今後のスケジュールを確認するとともに、懸案事項等について協議を行った。令和7年2月28日に完成検査が完了した。 ②月1回程度、定期的に会議を設け、今後のスケジュールを確認するとともに、懸案事項を共有し、令和7年4月の開業に向けた準備ができている。	①建設工事は完了し、これから施設を適切に管理・運営していく段階となる。管理や運営の方向性を確認しながら、円滑な運営を行う。 ②今後は、適切な管理・運営が行われるよう、検査等を実施していく。また、定期的な会議を継続し、関係者で運営状況や運営上の課題を共有し、協議を行う。
(2) 部活動地域移行の推進	○部活動地域移行検討協議会の設置と推進	①検討協議会を実施し、令和7年度以降の取組スケジュールを具体化することができている。 ②児童生徒、保護者及び地域のニーズに応じた推進を図るため、保護者等説明会や各種アンケートを実施し、それらの意見を令和7年度以降の取組スケジュールに反映することができている。	3	①検討協議会を2回実施し、「世羅町部活動の地域展開の方針」を固め、公表した。また、令和7年度から一部地域展開を実施する部活動を定め、合同部活動の立ち上げに向けて関係者との連携を実施している。 ②児童生徒及び教職員対象アンケートを6月に1回、保護者等説明会を5月と1月にそれぞれ2回実施し、得られた意見を令和7年度以降の地域展開のスケジュール等に反映させることができた。	①合同部活動の立ち上げに向けて指導者の確保や運営体制の構築、活動環境の整備等の課題が山積している。関係課と連携を取りつつ、スムーズな地域展開となるよう制度設計を行う。 ②令和7年度に地域展開を実施する部活動について、教職員や保護者への説明を行い、意見を聴取し、今後の取組スケジュールに反映させる。

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている
 年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

〔基本方針〕

4 郷土への誇りと国際感覚をもった人材を育てます。

世羅町教育委員会＜学校教育課＞

重点施策	取組方策	取組目標	進捗度	結果と成果	今後の課題と改善方策
(1) ふるさと学習の推進	○地域の特色を生かした「ふるさと学習」の実施	①コミュニティ・スクールの仕組を計画・立案し、実施することができている。	3	①地域の特色を生かした「ふるさと学習」を実施した学校は100%である。すべての学校がコミュニティ・スクールの仕組を活用するなどして、地域人材を活用した特色ある取り組みを進めている。	①コミュニティ・スクールの仕組を十分生かし切れていない学校もある。引き続き、町主催の連絡協議会での実践交流を行うことにより、コミュニティ・スクールの積極的な活用を促す。
(2) キャリア教育の充実	○せらゆめトライアルウィークの実施 ○中学校卒業以降までの見据えたキャリア教育研修の実施	①事前学習を充実させることを通して、せらゆめトライアル・ウィーク実施前と実施後の生徒アンケートを比較した結果、「目標などに対して『自分ではできない』と信じて取り組んでいました」と回答した生徒の割合を増加させることができている。 ②世羅高等学校との連携事業を、全ての小中学校において、年間1回以上実施することができている。	3	①本アンケート項目について「あてはまる」と回答した生徒は、体験の前後で5.9%増加した。(実施前37.2%、実施後43.1%) 事前学習の取組や2日間の職場体験学習を通して、生徒の自己効力感が高まったと考える。 ②町内のすべての小中学校で実施できた。各学校の特色に応じ、キャリア教育、進路選択、体力向上などの様々な視点から、各学科及び部活動等との連携による教育活動を実施することができた。	①事業実施に係る組織体制、実施時期も含めた次年度の取組スケジュール及び事業の成果を適切に見取るためのアジェンダの内容等の見直しを図るとともに、将来的に各学校の特色を生かした取組が進められるよう、次年度も引き続き本事業を実施する。 ②世羅高等学校に児童生徒が自ら足を運び、授業風景等を参観するなど、高校生の学びを体験することをも視野に進めていく。
(3) 国際理解教育の推進	○小・中学校における外国語教育の充実 ○中学生海外研修(ハワイ)及び異文化交流の実施	①外国語教育及び異文化理解に係る授業改善等を通して、児童生徒アンケートにおいて、日本語以外の言葉で他者とコミュニケーションを取ることが楽しいと感じる割合を80%以上に引き上げる。 ②海外研修で得たことを発表する場を設定し、各中学校における具体的な還元をすることができている。	3	①日本語以外の言葉で他者と話すことが楽しいと感じている児童生徒の割合は82.1%である。 ②報告会では、実地研修で学んだことを中心にプレゼンテーションをもとに、日本語と英語表現を用いて報告をすることができた。	①各校において言語活動を通して目標達成を図ることの重要性を押さえ、児童生徒の言語活動が図れるよう指導助言を行う。 ②令和7年度は研修報告を充実させていく。英語表現によるプレゼンテーションで生徒が自分自身の学びを主体的に伝えられる場を工夫する必要があると考える。同時に、相手意識を働かせて発表を行うことにも取り組みませない。各中学校での報告会における成果と課題を整理し、海外研修への興味・関心の喚起につなげていく。

※評価基準

中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている

年度末評価(達成度) 4:目標どおり又は上回る 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る

〔基本方針〕 5 教職員の力を最大限に発揮できる環境を整備します。

世羅町教育委員会＜学校教育課＞

重点施策	取組方策	取組目標	進捗度	結果と成果	今後の課題と改善方策
(1) ワーク・ライフ・マネジメントの充実	○ワーク・ライフ・マネジメントによる業務改善で、子供と向き合う時間を確保	①教職員の時間外勤務時間の把握と縮減に向けて、校長会議及び教頭研修会を通じて指導・助言することができている。 ②教職員の時間外勤務を、令和5年度比で3%以上縮減できている。	3	①毎月の校長会議で現状を提示し、指導・助言できている。昨年度と比較し、45時間未満達成者が2.2%の減少である。 ②教職員の時間外勤務は、令和5年度比で0.2%の減少であった。各校において、週時程の変更等による日常の教材研究や授業準備の時間を確保する工夫を行っている。各校における時間外勤務の要因は、教材研究や授業準備によるものである。	①引き続き、毎月の校長会議で現状を共有し、必要に応じて指導や助言を行っていく。あわせて、各校でも教職員一人一人に対する指導・助言を適切に行っているところであり、この取り組みを今後も継続し、働き方改革への理解や意識を高めていく。 ②若手教職員が増える中、働き方改革を教育の質向上に結び付けることは喫緊の課題であると考える。校長会議等を通じて、教職員の勤務実態を捉え、子供と向き合う時間の確保ができるよう、さらなる時間外勤務時間の縮減に向けた取組を推進していく。
(2) 労働安全衛生管理の徹底	○ストレスチェックシートの活用	①町内小中教職員におけるストレスチェックシート等の実施率100%とし、労働安全衛生管理に徹する。	3	①今年度のストレスチェックを各校で実施。100%の実施率である。加えて、各校においては、メンタルヘルスや職場環境の整備等の服務研修を行い、労働安全衛生管理に努めた。	①ストレスチェック実施後の教職員に対する面談や研修等の取組等により、引き続き、安全衛生管理に努めるよう指導を行う。

※評価基準 中間評価(進捗度) 4:既に達成した 3:かなり順調である 2:やや遅れている 1:かなり遅れている

年度末評価(達成度)

4:目標どおり又は上回る 4:目標どおり 3:ほぼ目標どおり 2:目標を下回る 1:目標を大幅に下回る